

会 議 録

会議の名称	第 11 回（令和 7 年度第 1 回） 飯塚市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和 7 年 7 月 23 日（水） 10：00～11：50
開催場所	飯塚市役所 本庁舎 1 階 多目的ホール
出席委員	貞清委員長、白瀧副委員長、渡邊委員、吉柳委員、野見山委員、田外委員 久家委員、高山委員、竹原委員、熊谷委員
欠席委員	大谷委員、本川委員、渡辺委員
事務局職員	【市民協働部】小川部長、内田次長 【まちづくり推進課】吉原課長、森山課長補佐 【市民活動支援課】橋本課長、相川係長、安藤
会議内容	1 開会 2 委嘱状交付 3 市民協働部長挨拶 ※（代理）内田次長 4 推進委員会委員及び事務局職員自己紹介 5 委員長、副委員長の選出及び挨拶 委員長：貞清委員 副委員長：白瀧委員 6 議題 議題（１）飯塚市協働のまちづくり推進条例について 飯塚市協働のまちづくり推進条例及び推進委員会について、飯塚市協働のまちづくり推進条例概要版、逐条解説を用いて、事務局より説明。その後、質問や意見を委員に求める。 【主な意見（感想）】 ・ 課題を掘り出していることにあたり、推進委員会の会議の回数は 2 回でよい。 ⇒ 昨年度はワークショップ形式で、市民の皆さんから意見を聞く会議を開催した。会議自体の回数を増やすことも踏まえて検討していきたい。 ・ 推進条例ができて 5 年経過した。この条例をだしたことによって、市全体がどのように変化したかをお尋ねしたい。 ・ 冊子「新しいまちづくりに向けて」の更新について、今年度には目途がつくと以前回答があったが、どのようになっているか。 ⇒ 平成 25 年に 12 地区のまちづくり協議会ができて、5 年スパンで方向性が見直しが行われている。今年度も見直しに入り、8 月 1 日にまちづくり協議会代表者会議にて協議予定である。

会議内容	議題（２）地域活動について 自治会連合会、立岩小学校、出前授業、まちづくり協議会の取組について事務局による説明の後、質問や意見を委員に求める。 【主な意見（感想）】 ・立岩地区はまちづくり協議会ができて、大きなイベント「子どもマルシェ」ができた。以前は交流センターで行っていたが、昨年度３月には立岩小学校の体育館で大々的に開催することができた。参加は子どもだけでなく、高齢者も多く参加し、さまざまな交流に繋がった。 ・立岩小学校の出前授業の報告があったが、そのほかに出前授業が決まっている学校はあるか。また、教育委員会との連携はどうなっているか。 ⇒ 颯田地区の小学校での授業を予定している。また、教育委員会との連携は、校長会での提案ができるよう調整を進めている。 議題（３）市民活動について 「ＮＰＯ・ボランティア団体と飯塚市の協働事業実績」「チャレンジング実績」について事務局による説明の後、質問や意見を委員に求める。 【主な意見（感想）】 ・ＮＰＯ・ボランティア団体と飯塚市との協働実績で、ＮＰＯ法人人権ネットいいづかにおいても、年２回の人権講演会を開催している。また、「かがやき」という人権啓発冊子を、年４回発行している。すこしずつ、自治会への啓発も進んでいる。 ・かいた子育てサポート・ジャムで、「かいたマルシェ」を開催している。チャレンジング事業の採択を受け２回実施し、今年は自主開催の予定である。小学生も大人も一緒に会議に参加し、世代関係なくみんなで取り組む、という形で活動している。 ・社会福祉協議会は、各地区に校区社協を設置し、地域福祉を推進している。まち協、福祉部会等と連携するケースが多く、それについては行政と関与していないため、見えていない活動が多くある。そういったものも整理すれば、飯塚市全体の活動への把握に繋がる。 ・チャレンジング事業の予算がついていないとのことだが、こういった予算がつかないことは、新しい事業創出の足かせとなる。予算要求したが、つかなかったではなく、次年度予算には必ずつけてもらいたい。 ・チャレンジング事業に関連して、補助金ではない部分の支援をうけたいときには、市民活動支援課に相談すればよいか。
------	---

	⇒ はい。できる範囲で対応していく。支援は補助金だけではなく、後援等による施設利用料の減免、備品貸与など知恵を絞り、まちづくり推進課との連携で行う。 ・チャレンジング事業については、予算がつかなくて一番歯痒い思いをしているのは事務局だろう。ただ、成果が見えづらく、参加人数ぐらいしか数字的には見えてこない。あり方を見直す機会になると思う。福岡県内で類似した補助金があるが、ここ数年は応募がないと聞いている。その辺は、市町村と地域、市民活動の考えのズレがあるのであろう。チャレンジング事業に関しては、あらためて、制度設計して検証することが必要だと思う。 ・予算関係で、まちづくり協議会では次年度の計画を7月には作成しなければならない。今年度の計画の実施前に、来年度の計画を考えることは非常に難しい。もっとやりやすい仕組みを考えていくべき。 ・自身は教育関係に従事していた。体育館を貸してほしいなどの要望もあった。学校を借りて、地域のお祭りなどで使い、地域が活性化することは大変いいことである。ただし、休みである先生にも出てほしいという要望があるため、主ですすめるのは地域であるという考え方を忘れないでほしい。 ・自身は自治会長しているが、自治会長同士でも考え方に格差がある。一番困っていることは、地域の連携ができないこと。全地区の催し物を、「交流センターだより」に掲載しているが、住んでいる地域しか情報が来ない。横のつながりを密にしていなければありがたい。全世帯配付と回覧のみなど地区によって周知方法も異なるため、統一できれば周知できるのではないか。そして、まちづくり協議会と自治会同士の連携はもっと密に行うべき。 一番の課題は自治会加入率で、飯塚市全体を捉えれば半分を切っているだろう。まちづくり協議会も自治会と同様に、役員の高齢化しており、次のなり手が見つからない。そういったことを踏まえると、若い人に関心を向けてもらうよう、動くべきである。山笠でいうところの「のぼせもん」のような人をどう作るか、若い世代と考えていきたい。 議題（４）その他 「地域の困りごと解決に向けた飯塚市・郵便局等の懇談会」について事務局より説明。 7 閉会
会議資料	○配付資料 ・第11回（令和7年度第1回）推進委員会 次第 ・委員名簿

	・飯塚市協働のまちづくり推進条例 ・飯塚市協働のまちづくり推進条例 逐条解説 ・飯塚市協働のまちづくり推進委員会規則 ・飯塚市協働のまちづくり推進条例（概要版） 【資料 1-1～5】 地域活動の報告 【資料 2-1】 令和 6 年度 NP0・ボランティア団体と飯塚市の協働事業実績 【資料 2-2】 令和 6 年度 NP0・ボランティア団体と飯塚市の協働事業実績 一覧 【資料 2-3】 令和 6 年度飯塚市協働のまちづくり応援補助金採択事業 一覧 【資料 3】 総務省九州管区行政評価局 報道資料
公開・非公開の別	1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 1 人)
その他	